

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成21年 2月26日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 15時00分
訪問先事業所名 (都道府県)	なごみの園・菊水 ( 熊本県 )
評価調査員の氏名	氏名 淵上 一光 氏名 下田 政信
事業所側対応者	職名 管理者、介護職員 氏名 家入尚美、長塚なつみ ヒアリングを行った職員数 ( 2 )人

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目につけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年3月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372401135
法人名	有限会社 ふれあい松川
事業所名	なごみの園・菊水
所在地	熊本県玉名郡和水町長小田334 (電話) 0968-71-8880
評価機関名	特定非営利活動法人PRENET21
所在地	熊本市八幡9-6-51
訪問調査日	平成21年 2月26日

## 【情報提供票より】(21年 2月 8日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成17年 3月11日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人	

### (2)建物概要

建物形態	併設 / (単独)	(新築) / 改築
建物構造	木造平屋造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	
	または1日当たり		1,000 円	

### (4)利用者の概要( 2月 8日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5		要支援2			名
年齢	平均 86.7歳	最低	73歳	最高	95歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	和水町立病院、田辺外科内科クリニック、ふじさわ脳神経外科クリニック、渡辺歯科
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

九州自動車道菊水インターから程無いところに位置するこの事業所は、近くに菊池川があり、その恵みを受けた田園風景の真っ只中にあります。元幼稚園跡ということもあって、広大な敷地の中で運営されています。また、一步事業所の中に足を踏み入ると、ゆったりびのびスペースに設計されており、明るく差し込む陽光の中で、利用者の方々と職員の談笑される光景がとても落ち着いて生活出来ていることを実感させられました。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題であったインフラの整備については、早急な取り組みが行なわれ、良かったと思います。またソフト面については、目に見えた形での改善はなかなか難しいものがあると思います。常に目標を持ち続け、会議等でチェックを行うようにしてください。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが初心にかえり、自分なりに課題を見つけたり、サービスの質の向上について考える機会となるように職員全員で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回の割合で会議は行なわれており、利用者の状況報告や取り組んでいることの報告、また緊急時の支援のお願い等行なっている。また、参加者からの提案については、会議で話し合い、サービスの質の向上につながる様に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関には「ご意見箱」を設置してありますが、第三者苦情処理機関等の案内もお願いいたします。また評価につきましても、事業所内に備え付け、インターネットで見られないご家族のための対応もお願いいたします。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の方が、野菜や花を届けてくれたり、また立ち寄られたりと日常的な交流が始まっています。近くの神社の清掃奉仕活動も続けられています。更に、今後は隣接の小学校の学童保育の場にもと、事業所側から積極的な地域へのアピールが始まろうとしています。

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念	地域の一員として、地域社会との交流“和”を重要課題と位置づけ、利用者のペースやレベルに合わせ、お互いの良い点を認め合い、楽しい生活を送ることができる様、支援することを理念としてつくりあげている。		
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
		理念の共有と日々の取り組み	理念は玄関等の見やすい場所に掲示してあり、職員には日常的に意識できるようにしている。		今後、内部研修会やミーティングの場において、声に出した取り組みも行なって欲しいと思います。具体的な内容についても話し合ってみてください。
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい	ホーム主催の秋祭りは近隣の方を招いて、大変盛大に行なわれています。また恒例となった神社の清掃、更には広々とした事業所スペースを隣接する小学校の学童保育の場として提供してみたらどうか、など積極的に地域との交流を模索している。		
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用	自己評価については、全職員で取り組んでいる。また外部評価と合わせて、自らのケアの振り返りのチャンスと捉え、具体的な改善や励みにつなげている。		
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
		運営推進会議を活かした取り組み	会議のメンバーは行政、民生委員、老人会、家族、交流のある他のグループホームの代表者等で構成され、2ヶ月に1回行なわれている。内容としては、事業所からの報告的なものが多い。		認知症の基本的なことやタイムリーな話題等を取り上げ、行政の出席者にも応援をいただき、会議の活性化を目指して欲しい。
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議や有明地区連絡協議会を通じて、町担当者とのつながりも出てきています。今後は、それを活かして利用者へのサービス向上に取り組んで欲しいと思います。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、手紙にて利用者の状況報告を行なっています。その際、領収書や請求書を合わせて送っています。また3ヶ月に1回は利用者の写真を掲載した、広報誌も発行しています。		職員の異動などについては、広報誌にスタッフ紹介や新人コーナー等を設けたらどうかと思います。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時や運営推進会議等では広く忌憚のない意見を募集している。また、玄関には「ご意見箱」を設置し、意見を前向きに捉え、改善の絶好のチャンスと考えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームという事情から職員の異動や離職は最小限にとどめられるような取り組みを行なっている。やむを得ない場合は職員のチームワークで利用者へのダメージを防ぐことができる様に心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修会は毎月行なわれ、職員のスキルアップに努めている。外部研修については、可能な限り参加できるように調整しているが、現段階では困難な面もあるようである。		職員のレベルアップ取りも直さず、施設としてのサービス力アップの為に、計画的な職員育成が望まれるところである。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	有明地区グループホーム連絡協議会が2ヶ月に1回開催されており、そこでは航空ケア、衛生、ケアプラン、悩み等々を話し合い、共有することによって、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上で入居してもらう為に、まずは施設内の見学を進めている。場合によっては入居者と過ごしてもらったり、またお試し宿泊を提案したりして、不安を解消する工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	心身のレベルが低下することで、本人からの積極的なかわりが少なくなりつつあります。そこで、食事の準備、掃除、また趣味の分野等と、入居者の出番作りを心掛け、喜怒哀楽を共にできる支援に取り組んでいる。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、アセスメントシートによる把握を行なっているが、十分ではない場合もある。そこで普段の何気ない会話の中から、本当の思いや意向が引き出せないか注力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<b>チームでつくる利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、介護職員の意見を反映したプラン作成を行なっている。必要な場合には、24時間契約の訪問看護ステーションの看護師さんの意見も取りいれている。		
16	37	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ないし、6ヶ月でプラン内容がクリア出来たかどうかのチェックは行なわれている。ただ見直しが必要な場合、サービスの実行とプランの文章化の時間差があるようである。		介護計画書としての文章化をスピーディーに行ない、家族からの押印を確実にもらうようにしてください。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療・健康面の支援としては、24時間対応の訪問看護ステーションとの契約や週1回の定期健診を実施している。その他、隣接のデイサービスを利用した地域住民との交流や自家農園を利用した支援にも力を入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望されるかかりつけ医の受診支援を行なっている。また大牟田地区には、認知症に対する理解ある協力医院もあり、定期的な往診や24時間体制で相談にもものってもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時から話し合い、認識を持ってもらうようにしている。その後は、本人の状況に応じて方向性をこまめに話し合う体制作りを心掛けている。緊急時の対応としては、訪問看護サービスや医療連携の関係者の判断をおおぎ、救急搬送処置をとっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りを傷つけないように馴染みと馴れ合いの違いを会議や勉強会では、常に確認しあっている。また記録等の個人情報の取扱いには特に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味や菜園作り、またその人の気の向いた物を自分のペースで行なってもらう様、支援に努めているが、つつい職員や事業所側の都合に合わせてしまうこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援	自家菜園の野菜を一緒に収穫して利用したり、手分けして調理の下ごしらえをしたり、またある時は利用者の希望を取り入れたりして食事が楽しみなものになるよう支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
23	57	入浴を楽しむことができる支援	入浴は2日に1回の割合で支援している。職員がマンツーマンで対応しており、時間帯としては午後が多い。また利用者によってはあまりすきでない方もおられるので、温泉という言葉で入浴を促している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	毎日の生活の中で、日めくりカレンダー、新聞取り、洗濯物を干したり、たたんだりと役割を果たした充実感を味わって貰える様な支援を行なっている。また趣味や楽しみごとに熱中することによって満足感が得られるような支援を心掛けている。		現在、たばこや酒をたしなまれる方はおられませんが、今後そのような場合が出てくれば、対応したいとの事です。
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
25	61	日常的な外出支援	室内から広大な田園風景が眺められるせいかもしれません、利用者からの積極的な外出希望は少ないようです。そこで散歩やドライブなどの機会を作るように支援しているとの事です。		事業所は、元幼稚園の跡地ということもあり、広い空き地があります。この地の利を活かした仲良しグループの散策や、比較的体調のいい人が車椅子利用者のお手伝いをしながらの散歩が行なわれています。これから若葉が萌える季節、外出を促すにはいいチャンスかもしれません。
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践	施錠の弊害は職員全員が理解しており、日中の玄関の施錠は行なっていない。防犯上、夜間のみ施錠している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
27	71	災害対策	避難訓練は年2回おこなっており、うち1回は夜間を想定したものとなっている。運営会議の中でも、災害時に近隣の方のご協力をお願いしている。		運営推進会議のメンバーに協力してもらい、緊急時の具体的な連絡網の構築が急務だと思われます。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援	食事摂取量についてはチェック表を用いて、一目で分かるように管理している。水分については、必要時にチェック表を用いて、水分不足にならないような配慮を行なっている。		これから夏場に向けて、水分チェック表の常備にも取り組んで欲しいと思います。
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり	居間、食堂、廊下等の共用空間には、絵画や利用者の作品、また手作りの色紙による飾りつけが行なわれ、温かみややさしい雰囲気をかもし出している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室の名札も大変温もりのある工夫がなされています。部屋の広さも十分に設計されており、家族の協力のもと、写真や子供の絵などなじみのものを持ち込んで、居心地良く過ごせるような工夫がうかがえます。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	なごみの園・菊水
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名郡和水町長小田334
記入者名 (管理者)	家入 尚美
記入日	平成 21年 2月 8日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>清掃活動などを通して地域の一員として少しずつ受け入れられている。今後も地域の行事に積極的に参加できるように地域とのかかわりを強化し体制を整えていきたいと思ひます。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>具体的な内容を話し合い、一つづつ実践していききたいと思ひます。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>来園されたことがない方にも民生委員や老人会の方を通してお話して頂いている。今後も積極的にお話できる機会を作っていきたいと思ひます。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>建物が道より入り込んだ所にある為、ふらりと立ち寄るといふ立地条件ではありませんが、気軽に寄れる雰囲気を一層整えたいと思ひます。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>地域での行事の情報をいただきながら、地域の一員として交流していききたいと思ひます。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の経験や知識を少しでも地域の方に生かせないかと運営推進会議の際に老人会や婦人会の方とお話をしています。		具体的な取り組みに、まだ至っていません。地域、行政とも協力しながら具体的な内容を提案し貢献できるように努めたいと思います。
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をすることで自らのケアを振り返り、外部評価により、職員が実際に行ってきたケアに反省や自信を与えてもらっています。その事で具体的な改善や励みにつながっています。		自己評価をすることの意義、外部評価を受ける意義を更に理解できるように努めたいと思います。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに会議を開催し、取り組んでいることの報告や提案を行い参加者から意見を頂いています。会議の結果や参加者から提案された事案については職員間で話し合い、ケアの向上につなげる為の具体的な方策を見出すよう努めています。		会議の後に家族会を開催し、具体的な内容や率直なご意見をいただけるよう努めています。今後も参加者から意見や要望が活発に出る雰囲気作りに努めたいと思います。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で町担当者や地域包括支援センターとのつながりも出来てきました。相談等行いながらサービスを提供しています。		事業所として出来る役割を行政と協働で実現できる機会を設けたいと思います。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修等を受け理解を深めています。積極的な啓蒙は行っていませんが、必要とされている方や興味がある方には機会を見ながらお話をしています。		職員間で権利擁護について話し合いの場を出来るだけ設け理解を深めていきたいと思っています。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会として位置づけて学ぶ機会はありませんが、機会をとらえ虐待の理解を深めるように努力しています。また、事業所内で虐待が見過ごされないように注意を払い、防止には努めています。		研修会等に参加し、情報を共有しながら全員が理解を深め、より良いケアにつなげる努力をしたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ケースに応じて時間をかけたり、話し合いの場を数回設けたりしています。不安や疑問が生じた際はいつでも話し合いの場を設けることが出来ることも説明し安心していただいています。</p>		<p>利用者や家族から積極的に疑問点を確認されることが少ない為、聞きやすい環境作りを行いながら十分理解して頂けるように一層努めたいと思います。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見等はその場で職員が受け付け、家族に伝えられた意見も収集するようにしています。意見等は運営に反映できるように体制を整えています。</p>		<p>意見、不満、苦情等気軽に言える環境作りに一層努め、対応が必要な場合は迅速に行えるようにしたいと思います。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の状態は必要に応じ面会時や電話等で報告を行っていますが、一ヶ月の暮らしぶりを要約して毎月必ずお知らせしています。また、三ヶ月ごとに広報紙を発行し写真等を掲載することで日常の表情もお伝えしています。</p>		<p>日常の写真を載せた葉書を作り、ご本人にメッセージを書いていただき定期的に家族や知人に送付したいと考えています。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「ご意見箱」を玄関に設置し、苦情窓口についても口頭や掲示物でお知らせしています。家族面会時や運営推進会議の場でも意見等の受け付けを行い運営に反映できるように体制を整えています。</p>		<p>意見、不満、苦情等気軽に言える環境作りに一層努め、対応が必要な場合は迅速に行えるようにしたいと思います。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営に関して職員から意見を聞く機会が殆どなく、また、職員の方から積極的に提案が出せる環境が整っていません。</p>		<p>積極的に運営に関われるように環境を整えたいと思います。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>可能な限り勤務調整を行い要望に応じていますが、限られた職員数で対応している為、十分とは言えません。</p>		<p>現状を継続しながら、体制の見直しに努めたいと思います。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員離職の場合は、利用者にはダメージがかからないように既存の職員のチームワークで防ぎ、職員体制を少しでも早く整えるように努めています。</p>		<p>職員の交代の場合、顔馴染みの職員による支援が出来るような勤務体制が取れるように努めたいと思います。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に十分参加できているとは言えないが、可能な限り参加できるように調整しています。職員が働きながらトレーニングを希望する場合も出来る限り尊重し、参加できるように調整に努めています。		職員のニーズを把握しながら計画的に研修に参加が出来るように体制を整えたいと思います。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会の勉強会や交流会に参加しています。また、訪問の機会を作り見学・談話を通じ創意工夫されている情報をもらいながらサービスの質の向上につなげています。		全職員が参加できるように体制が少しずつ整ってきています。今後も全職員が多くの交流の機会が持てるように一層努めたいと思います。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを軽減できるような体制は出来ていません。職員間や個人でそれぞれにストレスを解消しているのが現状です。		ストレスがかからない職場環境を整え、軽減できる体制を今後も整えていきたいと思っています。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	マンパワー不足もあり、日常の業務に追われてしまっているのが現状です。その中で職員が自信や向上心を持って取り組んでいることは可能な限り支援しています。		職員がやりがいを持って働ける環境を整えていきたいと思っています。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人と対する時は、傾聴、受容の姿勢で臨んでいます。また、ご本人の表情やしぐさ等にも配慮し、こちらから声掛けし、気持ちが出し易いように対応しています。		今後ご本人自身から意思表示しやすい雰囲気を作り、その時に応じた受けとめを行っていただけるようにしたいと思います。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	関係している機関(ケアマネージャー等)より情報収集しながら、傾聴、受容の姿勢で臨んでいます。		今後も家族から意思表示しやすい雰囲気を作り、情報収集しながら本人と家族を取り巻く環境を把握した上で傾聴、受容をおこなっていききたいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で相手のニーズを的確に把握し可能な限り考えられる方向性を示しながら対応しています。		ご本人と家族のニーズを調整することが難しいことがありますが、双方にとってより良い支援を提案できるように努めていきたいと思います。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用になる前に、見学や試し等を提案しています。また、ご本人の状態に応じながら、グループホームが出来ること、家族がそこにどのように関わって頂くかを提案しながら、ご本人が安心して利用できるようしています。		家族の方が持つておられるイメージを払拭し、当グループホームが出来ることを理解して頂くように説明を続けていきたいと思っています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	心身のレベルが低下することでご本人から積極的なかわりは少なくなっていますが、今まで培ってこられた経験を、共に生活することで教えて頂くことは多く有ります。一緒に笑い、一緒に悲しみ、時には口論しながら過ごしています。		今後も職員の対応が押し付けにならないように気をつけながら共に支え合える関係を築いていきたいと思っています。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を支える為に、ご家族の協力をお願いしています。家族の方にも関わっていただける環境を少しずつ整えています。		グループホームに入居された事でご家族が一步引かれてしまいがちなので、ご家族が以前同様にご本人に関わっていただけるように働きかけしていきたいと思っています。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	情報収集をしながら、ご本人と家族等の関係を把握し、グループホームに入居されることで家族との絆が弱くならないような支援を行っています。		入居後時間が経過すると関係が希薄になられることもあります。ご家族に押し付け感を持たれること無く、協働でご本人を支えられる関係を強化していきたいと思っています。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人に馴染みのある場所に外出したり、知人等の訪問を積極的に受け入れしています。		ご本人がグループホームに入居されたことで地域と絆が切れたと思われる方達に今後も働きかけをしていきたいと思っています。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ある程度はご本人達の行動を尊重していますが、孤立される方があれば、職員が仲介しお互いが関わりあえるように努めています。		今後も出来る限り皆様が支えあい、関わりあえるような関係になるように支援していきたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族が必要とされ、当事業所が出来る支援は行っていく準備はあります。現在のところ継続的に関わりを必要とされた方はおられません。		関わりを必要とされる方には当事業所が対応出来る事は今後も継続していきたいと思います。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望など機会あるごとに情報を収集しながら、一人ひとりの意向を把握するように努めています。		利用者の意向を優先する体制は変わりませんが、意思表示しやすい環境を整え一つでも多くの希望を聞き出す努力をしたいと思います。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係者等よりこれまでの生活歴の情報を収集したり、生活を共にする中で把握に努めています。		情報収集に努め、よりその方を理解し、これまでの暮らし方を尊重できるような関わりをしていきたいと思います。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日、その時の心身状態を把握し、適切に対応できるように努めています。		その日の心身状態や発揮できる力を見極めその人らしく過ごすことが出来るようにチームケアに努めたいと思います。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや希望に職員がアセスメントした内容を介護計画に反映させています。		本人の希望や意向が表出しやすいような環境を作り、職員が把握できる体制を強化したいと思います。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じて見直しを行い、家族とも話し合い了解を得ながらケアに当たっていますが、介護計画書として文章化するのがタイムリーに行えていません。		タイムリーに介護計画書として文章化し、職員間のケアの統一のみならず、家族やご本人にしっかり理解していただけるようにしたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは個人記録に記入しています。また、申し送りノートを用意し情報の共有に努め、介護計画の見直しに活かすようにしています。		各職員が気づき介護計画に反映すべき点がタイムリーに活かせるように介護支援専門員と利用者担当職員が協働できる体制を整えていきたいと思っています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同事業所のデイサービスを活用し、利用者の要望に応じていますが、十分な支援とはなっていません。		事業所が出来る事を把握した上で要望に柔軟に対応できる体制を整えたいと思っています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向で地域資源と協力しながら対応した事がまだありません。		必要時には直ぐに地域資源と協力し対応できるように地域との関係作りをおきたいと思っています。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスとの関係づくりは少しずつ出来ています。しかし、本人の意向で他のサービスと協力しながら対応した事がまだありません。		必要時には直ぐに他のサービスと協力し対応できるように関係作りを強化しておきたいと思っています。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	関係づくりは少しずつ出来ています。本人の意向で地域包括支援センターと協力しながら対応した事がまだありません。		必要時には直ぐに地域包括支援センターと協力し対応できるように関係作りを強化しておきたいと思っています。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望によりかかりつけ医を設定し、定期的な往診と電話による指示を24時間対応で行ってもらっています。訪問看護サービスも入り、かかりつけ医との関係は良好でご家族は安心感を持たれています。		今後も協力関係を維持、強化していきたいと思っています。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の大部分の方達のかかりつけ医が認知症に詳しく、職員のみならずご家族がかかりつけ医に直接相談できる体制になっています。		今後も継続し、協力関係を強化していきたいと思います。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護サービスと医療連携を取っており、日常的な健康管理や相談を行っています。利用者の急変時はもとより、いろいろなアドバイスをもらいながら医療的支援を行っています。		今後も継続し、医療的支援を強化していきたいと思います。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に病室を訪れ、本人に面会し、馴染みの顔を見てもらいながら様子を確認し、病院関係者や家族より情報をもらい早期に退院ができるように努めています。		今後も家族や病院関係者と密接な連携を取り、ご本人が安心して過ごしていただけるように努めたいと思います。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に第一回目の話し合いをしています。ご本人の状況に応じて方向性をこまめに話し合う体制は出来ています。		今後もこの体制を継続していきたいと思っています。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、事例が無いため具体的な話し合いは出来ていません。現時点で検討出来ることは事に触れ話し合いをしています。		事例をとおすことにより、事業所で出来る事出来ない事の見極めができ、よりよい支援が出来ると考えています。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人のダメージが無いように関係者間で話し合い情報交換に努めています。しかし、時間的余裕が無い状態で移られる場合もあり、移られた後に必要があれば支援していく体制は出来ています。		家族やご本人の思いを早い段階から知ることの出来るような体制を整え、ダメージをかけずに移り変えが出来るよう関係者間で情報交換をおこないたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱いには配慮しています。言葉がけについては、時として馴れ合いを感じます。	馴染みと馴れ合いが混同されないようにまた、尊厳を守るということを会議や勉強会を通して話し合っていきたいと思います。
51	<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人が思いや希望を表出できるような雰囲気作りに努めています。また、表情やしぐさに気かけながら思いや希望をくみ取り自己決定を促しています。	今後も継続しながら、一つでも多くの思いや希望をくみ取れるような体制を強化していきたいと思います。
52	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人の希望に添って支援していますが、事業所側の都合に合わせていただいていることもあります。	事業所側の都合を押し付けることなく、ご本人の希望にそった支援が出来るように体制を整えていきたいと思ます。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	意思表示が可能な方は希望に沿って支援できています。意思表示されない方には表情や好みの情報に沿って支援しています。理容に関しては職員が対応しています。ご本人、ご家族も喜ばれています。	ご本人の意欲がなくなっているのが現状ですが、今までの馴染みのお店で理容ができるようには支援したいと思っています。
54	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方達の希望をメニューに反映させていますが、畑で野菜を収穫したり、話題の中で食べたい物が出た場合、メニューを変更し作り方を聞きながら一緒に料理をしています。	ご本人の発揮されていない力を楽しみながら出していただけるような働きかけをしていきたいと思ます。
55	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	以前お酒を飲まれていた方も年齢とともに嗜まれないようになっています。時には飲酒の機会作り提供し喜ばれています。お菓子を自己管理されて楽しめる方もおられます。皆様の好みやご本人の嚙下状態を把握しながら楽しめるように支援しています。	お酒やタバコの希望があれば、楽しんで頂けるように一定のルールを設けることとなります。また、おやつを自己管理されている方の管理方法については、今後もご家族やご本人と話し合いながら支援していきたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	心身状態を把握しながら必要時にはオムツやパットを使用しています。失敗が無く気持ちよく排泄出来るように、表情や行動に気がけながら支援しています。		今後も継続し、心身の変化を敏感に把握出来るように職員間の情報の共有を徹底していきたいと思います。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の希望に添って対応できることもあります。しかし、ご本人の了解は得ていますが曜日や時間帯を事業所側の都合で行うことが多いです。		ご本人の希望に添えるように体制を整えていきたいと思います。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜遅くまでテレビを見られたり、ゆっくり朝起きられたり、昼寝をしたりとご本人の今までの習慣を継続していただいています。寝たきりや孤立しないように配慮しながら、ご本人の希望や体調に合わせて休息出来るようにしています。		周りの方々に遠慮されることなく自分の生活ペースで過ごしていただけるように配慮したいと思います。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人の生活歴からの特技が他利用者に負担にならない程度で役割を持って日々を過ごしていただいています。また、生活をしている中で新たな役割を見出された時は、積極的に支援しています。		ご本人の自尊心と役割のギャップを上手に埋める関わりが出来るように、新たな役割について積極的に支援できるように職員間の情報の共有を徹底していきたいと思います。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より金銭をお預かりしている方はおられます。現在、ご本人がお金の所持や使用を積極的に希望されません。機会を見つけては一緒に買い物しながら購入していただいています。		積極的に自分の欲しい物を自分で買うという機会を作りたいと思います。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者から積極的に外出の希望が出ません。散歩、ドライブなど戸外へ出かける機会を作って楽しんでいただいています。		利用者が戸外への関心をもたれるように働きかけていきたいと思っています。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	機会を作っては皆様と外出をおこなっています。また、家族の協力が必要な場所は家族と話し合いをしながら支援しています。		今後も継続しながら、ご本人が外出できる状態ではないと思われるご家族にも働きかけをおこない、ご本人の希望にそえるように努力したいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご希望があった場合は必ず対応しています。その他にも遠方の方から贈り物があった場合など、ご本人から電話をしていただいたり、葉書を出していただき関係が一方的にならないように支援しています。		電話や手紙のやり取りの機会を多く持ちたいと思っています。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	知人等の訪問は積極的に受入しています。建物の限られたスペースではありますが、居心地よく過ごして頂けるように努力しています。		今後も居心地のよいスペース作りに心がけ、ご家族や知人等と楽しい一時が過ごせるような環境を作りたいと思います。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		継続的に勉強会を開きながら身体拘束についての理解を深め具体的な行為を認識できるようにしたいと思います。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外に徘徊される方がおられますが、同事業所のデイサービスの職員や近所の方の協力を得て、居室や日中玄関には鍵をかけていません。		ご入居の方の状況に応じて、検討を重ねながら鍵をかけない見守りを継続していきたいと思っています。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は数名の職員で目配りしていますが、所在の確認や安全への配慮が十分に出来ていないことがあります。夜間は定時の確認だけでなく必要時には随時安否の確認を行っています。		事が生じた時に「ちょっとドッキリ」「ひやり・はっと」「事故報告書」を記入し、職員間で対策を検討しています。また、会議の場でも議案にして再発防止について話し、安全に配慮していきたいと思っています。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	皆様に危険なものは一律に行いますが、一人ひとり危険な物品は違いますのでその方に合わせた取り組みをしています。		どのようなものが危険となりえるのか、職員間で意識統一しその人に合わせた対応をしていきたいと思っています。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	薬については袋に朝・昼・夕のチェックや同じ苗字の方にもチェックを入れ間違いが無いようにしています。また、その日、その時の一人ひとりの心身状態を把握し、職員間で情報を共有しながら事故防止に努めています。		今後も継続し体制を強化していきたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応マニュアルは各自持っています。一度は勉強しているのですが、定期的な訓練の場を設けられていません。		医療連携を取っている訪問看護事業所と、訓練の場や勉強会を定期的に設けたいと思います。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議の際、災害時に近隣の方のご協力をお願いしています。避難訓練は年2回行っています。		消防署だけでなく、地域の消防団との連携も取れるように調整していきたいと思います。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご本人の状況が変わりリスクが変わるごとに、ご家族に報告し対応について意見や要望を頂きながらケア方針を決めています。		今後もご家族と密接に相談できる関係を続け、ご本人にとってより良い対応をしていきたいと思います。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	心身の変化について気付いた際は、個人記録、申し送りノートを活用し情報の共有に努めています。また、医療連携を取っている訪問看護ステーションにも報告し、早期発見や急変時の対応が出来るように努めています。		より一層、情報の共有を強化したいと思います。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人記録に綴じいつでも確認が出来るようにしています。		心身の変化に対し服薬との関係について理解出来るようにしたいと思います。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	いろいろな情報を取り入れ食べ物への配慮や運動の働きかけは常時行っています。働きかけに対しご本人が嫌がられる場合は他の方法を検討しスムーズな排便に心がけています。		今後も継続し、心身状態を見極めながら働きかけしたいと思います。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のケアはご本人の心身の状況に応じて対応しています。残歯がある方は、自分で磨かれた後チェックを行い、義歯の方は定期的に洗浄剤で消毒をしています。		訪問歯科等を活用し、口腔ケアに努めたいと思います。また、職員が口腔ケアの重要性の理解を深められるように勉強会への参加や開催を考えていきたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や形態はその人に合わせまた、食事摂取量はチェック表を活用して把握しています。水分については、必要時に水分チェック表を使用し職員間や日によって不足が無いように気がけています。		水分を自ら希望されない方に対する配慮を今後も継続し強化していききたいと思います。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は、入居の皆様のみならず職員全員が流行前に実施することにしてあります。また、各疾患の症状の理解に努めています。		感染予防について定期的に勉強会を開催していききたいと思います。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	設備や備品等が不十分ですが、勉強会で得た情報を取り入れながら管理に努めています。		少しずつでも設備や備品も整えながら衛生管理に努めたいと思います。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の立地場所が敷地の奥にあります。花を植えたり手作りの看板を設置し親しみやすく入りやすい雰囲気作りに努めています。		今後も外来者や家族の方に印象を尋ねたり、アイデアを頂きながら入りやすい雰囲気を作っていく努力を続けていききたいと思います。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様が集われる居間や食堂にはソファや椅子を多く配置し寛いでいただいています。また、皆様の視線上に季節の花があるように飾っています。廊下には絵画や利用者の作品を飾って雰囲気作りをしています。		匂い、音、光が利用者の皆様に与える影響を職員が理解して対応していけるように、勉強会や、会議の場で話題にしていきたいと思っています。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様それぞれ自分の居場所を持っておられます。他者と交わったり、一人になられたりして過ごされています。		限られたスペースであっても固定観念に囚われず、居場所作りに努め、皆様それぞれに居心地の良い場所を提供できるようにしたいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を持ち込み居心地良く過ごされるように家族の方に協力をお願いして、少しずつ進んでいます。		今後も家族の方に馴染みの物の持込を理解して頂けるように説明を続け、協力をお願いしていきたいと思います。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物全体が24時間換気システムを取っていますが、必要に応じ窓を開け換気や臭気を排出しています。また、温度調節はこまめに利用者の状態に合わせて行っています。		換気により臭気が取れない場所には、消臭剤や芳香剤を活用し入居の皆様にご不快が無いように努めたいと思います。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見直さなければならない点もありますが、現設備の中で出来るだけ身体機能を活用し生活していただいています。		見直しが必要な箇所は一つずつでも改善していきたいと思っています。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	心身状態に合わせた声かけを気げながら混乱を防ぎ、自分できるところは自分でしていただくように支援しています。		ご本人の心身状態を的確に把握し、ご本人が楽しんで生活できるように支援していきたいと思います。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園庭やベランダで散歩や日光浴をされるだけでなく、天気のよい日は椅子やテーブルを持ち出して昼食や炊き出しを楽しまれています。		全てのレベルの方が利用しやすいように環境を整えていきたいと思います。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・隣接する小学校からは子供達の声が聞こえる環境の中、姿が見えたら気軽に声を掛け合うなど日常的にふれあっていますが、小学校側より機会を作って入居の皆様が喜ばれる出し物を持って訪問してくれます。今後もいろいろな形で交流が図れると思います。
- ・敷地内の藤棚の下で昼食を食べたり、お釜でご飯を炊いたりして楽しんでいます。また、敷地内の畑では数多くの野菜が収穫でき、料理に彩を添えています。
- ・地域の方々にも多数参加いただき、盛大な秋祭りを開催しています。